

杉並区立中央図書館

ヤングアダルト（YA）向けパスファインダー 仕事・職業について調べる



「進路を考えろ」なんて言われても、したいことがわからないし、
どんな道を選ぶのかもわからない……なんて悩んでいませんか？
そんなときは、働くってどんなことか、世の中にはどんな「仕事」
や「職業」があるのか、図書館でヒントを探してみましょう。

★分類番号の横に「児」とあるのは <児童資料>、
無表記は <一般資料> を示しています。

★各資料の詳細は、蔵書検索システム（OPAC）でご確認ください。
(所蔵館によって、出版年や分類番号が異なる場合があります)

はじめに

- 本で調べたことをまとめるときは、どれが自分の考えで、どれが他の人の考えかがわかるように、使った本の名前やその本を書いた人の名前を、「参考にした本」として書いておくようにしましょう。
- 資格の取り方などは、制度の改定などにより変更になる場合があります。資料を調べるときは、それが何年に書かれた本なのかを確認し、最新の情報かどうか、その資格を認定している機関などに問い合わせてみましょう。

① まずはこの本棚をチェック！

図書館の本は、本の主題を示す**分類番号**に沿って並べられています。今回は、次のようなキーワードに関わる分類の本棚に行ってみましょう。

★今回のキーワード★

仕事、職業、働くということ、社会

★キーワードに関わる本の分類番号★

360番台 …… 社会（仕事・労働）

366番台 …… 労働経済・労働問題

★杉並区立図書館で採用している分類やラベルのルールについて、さらに詳しく知りたいときには、図書館ホームページ（トップ>パスファインダー）の「パスファインダー 基礎編その1」のページをご覧ください。

★目的の本が見つからないときは、図書館のスタッフにお声がけください。

② 蔵書検索システム（OPAC）で調べてみよう

図書館の本は、蔵書検索システム（OPAC）を使って調べられます。
OPACは、図書館内の端末機か、図書館ホームページから利用できます。

<図書館内の端末機から検索するとき>

<図書館ホームページから検索するとき>

★OPAC の詳しい使いかたを知りたいときは、画面右上の「？」マークのところに
あるヘルプページ、または、図書館ホームページ（トップ>パスファインダー）の
「パスファインダー 基礎編その1」のページをご覧ください。

③ 仕事・職業について知る前に、立ち止まって考えよう

仕事や職業について調べる前に、少し寄り道。まずは「働く」ことに対する先入観を解きほぐす、こんな本はいかがでしょう。

『働くってどんなこと？ 人はなぜ仕事をするの？』

ギヨーム・ル・ブラン／著、伏見操／訳、岩崎書店／発行、2017 年（360 ル）

「人は絶対働かなくてはいけないのか」「私たちは仕事によって自由を得るのか、失うのか？」といった根源的な問いを、有名な思想家などの言葉から探っていく。働くことの原点を考えるための手引書。

『増補改訂 14 歳からの仕事道』

玄田有史／著、イースト・プレス／発行、2011 年（児 360 ケ）

「やりたいことなんてない」なんて当たり前。実は大人も、ずっと迷いつづけている。そのことを正直に認め、「それでも、仕事ってものには醍醐味がある」ということを、大人の立場から真摯に示した一冊。

『これを知らずに働けますか 学生と考える、労働問題ソボクな疑問 30』

竹信三恵子／著、筑摩書房／発行、2017 年（336 タ）

給料は誰が決める？ 公務員になれば安心？ 基本だけど今さら人に聞きにくいそんな疑問を、一つ一つわかりやすく解説する。自分の身を守るためにぜひ知っておきたい、「労働」に関するルールが満載。

『タネの未来 僕が 15 歳でタネの会社を起業したわけ』

小林宙／著、家の光協会／発行、2019 年（615 コ）

著者は 15 歳で、伝統野菜のタネを売る会社を起こした。私たちの命を支えるタネの重要性と、起業の経緯を語るその言葉からは、自分の手で仕事を生み出し、社会に関わることの興奮が伝わってくる。

④ どんな仕事・職業があるのか知ろう

働くことや大人になることのイメージが何となくわいてきたら（もちろん、まだわいてこなくても大丈夫！）、次に、この社会にどんな仕事があるのか、いろいろ眺めてみましょう。

『10代のための仕事図鑑 未来の入り口に立つ君へ』 大泉書店編集部／編集、大泉書店／発行、2017年 (児 360 オ)	
10代の人たちに向けて、361種類の仕事の内容となり方、どんな性格の人に合っているか、勤務時間や休日、その仕事の今後の予想などを紹介。イラストも多く見やすいデザインになっている。	
「なるには BOOKS」シリーズ ぺりかん社／発行、刊行中 (366.2 ナ)	
パン屋から声優、冒険家まで、多くの職種をカバーすることを目的とした、職業ガイドシリーズ。その仕事の魅力と現実、待遇、必要な資格まで、具体的な情報を幅広く紹介。既刊 150 冊以上。	

「しごと場見学！」シリーズ ぺりかん社／発行、2009～2016年（児360シ）	
「病院で働く人たち」「書店・図書館で働く人たち」など、働く場所ごとにさまざまな職種を取り上げ、実際に働いている人たちへのインタビューを豊富に載せている。その業界を体験した気分になれる。	
医療・福祉の仕事は、少子高齢化社会の中、ますます切実に求められている。医師、看護師、保育士、介護福祉士などの仕事の1日を、多くの写真で追いかけるシリーズ。なり方や待遇の情報も。	
「大人になったらしたい仕事」シリーズ 朝日中高生新聞編集部／編、朝日学生新聞社／発行、2017～2019年（360ア） 朝日中学生新聞の連載をまとめたシリーズ。 「好き」を仕事にした35人の先輩たちのインタビューを紹介。一日のスケジュールや、夢を叶えて仕事につくまでの道のりも教えてくれる。	

⑤ 自分の目や耳で、実際に見て・聞いてみよう

今の就活では、インターネットが重要な情報源。でも、実際に自分の目で見たり、耳で聞いたりして得られる情報もたくさんあります。

● 身近な大人に聞いてみる

あなたの周りにいる、家族や兄弟、親戚、学校や塾の先生、学校司書、地域の人たちなど、身の周りの大人は、みんな「生きた情報源」です。たとえ今はぜんぜん興味を持ってない仕事でも、「なぜその仕事に就こうと思ったのか」「実際に就いてみてどうだったか」など、いろいろ話を聞くうちに、また別の側面が見えてくるかもしれません。

● 新聞の求人欄や、街で配っている求人情報紙を眺めてみる

新聞の求人欄や、街角（駅や書店など）で見かける無料の求人情報誌。「自分にはまだ関係ない」と思って、無視してしまうのはもったいない。自分の住む地域にはどんな仕事があり、どんな条件なのか、手軽に調べられます。実際に就職した人の体験談や、面接対策のコラムなどの記事が載っていることもあります（もちろん、できる人は、実際に何かアルバイトをしてみるのも貴重な経験になるでしょう）。

● 学校の進路相談室に行ってみる

学校の進路相談室などで、進学先の学校や企業のパンフレット、卒業生の進路といった情報を調べられることもあります。学校によっては、職場体験やインターンの仲介をしてくれる場合も。進路指導を担当する先生がいるかと思いますので、詳しい話を聞いてみましょう。



働きはじめて「おかしいな」と思ったら……

実際にアルバイトなどで働きはじめたら、お給料が約束と違ったり、無理なシフトを組まされたりした……。それは、もしかすると、「ブラックバイト」かもしれません。「おかしいな」と思ったときは我慢せずに、周りの人に相談しましょう。また、次のような手引や窓口も、あなたの味方になってくれます。

●『ブラックバイト対処マニュアル』

（早稲田大学学生部学生生活課／協力、
早稲田大学出版部／発行、2016 年、377.9 ㌦）
学生バイトの賃金や労働・休憩時間に関わるトラブル、
いじめなどの問題への対応方法をまとめたマニュアル。
ブラックバイト見極めチェックシートもついている。



● 総合労働相談コーナー

(<https://www.mhlw.go.jp/general/seido/chihou/kaiketu/soudan.html>)

都道府県労働局や労働基準監督署内に設置されている窓口で、労働に関するトラブル全般の相談（電話または面談）ができる。性に関する労働問題にも対応。

● ブラックバイトユニオン

(<http://blackarbeit-union.com/>)

若者の労働問題改善に取り組む NPO 法人 POSSE を母体とする団体で、学生スタッフが多く参加。弁護士や大学教員が、労働問題の解決をサポートしてくれる。電話・メールで相談を受付。

杉並区立中央図書館

2012 年 12 月 1 日発行

2018 年 3 月 1 日改訂

2020 年 12 月 1 日改訂

（代表）03-3391-5754